2022 年 3 月 18 日

南山大学長
ロバート・キサラ 殿

人文学部人類文化学科
青柳 宏

研究休暇報告書

私は 2021 年 9 月 16 日から 2022 年 3 月 15 日までの 6 ヶ月間に渡り研究休暇をいただきました。この期間中の研究・教育活動に関して以下のとおりご報告します。

１．Department of Linguistics, University of Hawai'i at Manõa における在外研究

上記機関から招聘を受け 2021 年 11 月 2 日から 12 月 19 日までアメリカ合衆国ハワイ州ホノルル市に滞在し、William O'Grady 教授、Shin Fukuda 教授らと意見交換をしながら、科研費基盤研究(C)「動詞接辞および補助動詞をなす機能範疇に関する日韓比較研究」（令和 2 年度～4 年度、課題番号：２０Ｋ００５５５、研究代表者：青柳宏）および 2021 年度パッヘ研究奨励金課題研究「動詞句階層構造仮説の再検討：動詞文法化の日韓比較から」を遂行した。この研究成果は、以下の共著書に発表される予定である。

・『形態論と言語理論』（査読付）、共著（大関洋平、漆原朗子、他 13 名）、2023 年 1 月（刊行予定）、開拓社、（執筆担当部分：「日韓語の動詞多重接辞化について」(25p.)）、総頁数未定.

なお、ハワイ大学における在外研究期間は当初 2021 年 11 月 1 日から 2022 年 3 月 15 日までを予定していたが、渡航後に歯科治療の必要が生じたため、ハワイ大学の年末年始休暇期間中に日本に一時帰国し、治療後ふたたび現地に戻るつもりでいたところ、新型コロナウイルス・オミクロン株の蔓延により、再渡航を断念せざるを得ず、これに応じて在外研究期間の短縮を余儀なくされた。

２．東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「理論言語学と言語類型論と計量言語学の対話にもとづく言語変化・変異メカニズムの探求」言語変化・変異研究ユニット（研究代表者：小川芳樹（東北大学））共同研究員としての活動

2021 年 4 月から共同研究員として参画している上記研究ユニットの月例研究会（オンラ

イン）に参加し、他の研究員と情報交換をしながら、担当の日韓語の文法化における比較研究を進めた。この成果は、以下の共著書に発表される予定である。

・『コーパスからわかる言語変化・変異と言語理論 3』（査読付）、共著（小川芳樹、中山俊秀、他 14 名）、2022 年 12 月（刊行予定）、開拓社、（執筆担当部分：「日韓語の適用形について－補助動詞ヤルと cwu-ta を中心に－」(15p.)）、総頁数未定.

３．博士後期課程学生の研究指導

3 名の博士後期課程指導生（全員修了に必要な単位は修得済み）のために、ホノルル滞在中も含め、隔週ペースでオンラインでの研究指導を継続した。

以上。